

1. 課題と目的

課題 総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発

目的 各省の連携を図りつつ、化学物質のライフサイクル全体でのリスク評価に必要な研究を推進する。また、国際的な化学物質の安全管理に役立てる方策を検討する。

2. コーディネータ

【コーディネータ/タスクフォース主監および主監補佐】

安井 至 座長補佐・主監 (独) 科学技術振興機構研究開発戦略センター上席フェロー
清水信之 主監補佐 (独) 科学技術振興機構研究支援業務室

3. 補完的課題

補完的課題は、各省の施策を補完し化学物質のトータルリスクを最小にする適正管理を実現することを目的としている。平成19年度に補完的課題を公募して、研究プロジェクトを開始した。

・課題分類：化学物質情報プラットフォームの構築とその活用に関する調査研究（平成19～21年度）

・課題名： 事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤

・研究代表者： 横浜国立大学 三宅淳巳教授

・活動概要： 連携施策群会合において、補完的課題の各年度計画、進捗状況、成果を報告。また、補完的課題を推進するために産総研（5月19日）、国立環境研究所（7月25日）との会合を開催して、情報交換した。

4. 会合の開催状況

・平成19年度

平成19年11月13日 連携施策群 第2回会合： 2007年透過型施策マップ、補完的課題、化学物質における人材育成、シンポジウム（成果報告会）、タスクフォースの設置を検討

平成20年2月6日 平成19年度対象施策成果報告会（シンポジウム）開催

・平成20年度

平成20年5月30日 第3回会合： 補完的課題の19年度成果と20年度計画、各省平成19年度の成果と20年度実施施策、化学物質における人材育成

平成20年8月22日 第4回会合： 平成20年度シンポジウムについて、補完的課題の進捗状況確認

・今後の予定

平成21年1月29日 平成20年度対象施策成果報告会（シンポジウム） 添付資料参照

総合科学技術会議 科学技術連携施策群
総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発
平成20年度対象施策成果報告会
「化学物質管理におけるリスクーベネフィット」

趣 旨

国民の安全・安心を確保するとともに、環境と調和した循環型社会を構築するために、化学物質を製造から利用、廃棄にいたるまで適正に管理することが喫緊の課題となっている。第三期科学技術基本計画のもと環境分野では、化学物質のリスク評価・安全管理に関する研究開発を進めている。各省の連携を強化して、我が国の研究開発ポテンシャルを高め、さらに持続可能な社会の実現に向けて、国際的にも貢献するよう、科学技術連携施策群「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発」を昨年度より開始した。

化学物質管理においては、化学物質の毒性や有害性のみならず、ばく露状況も考慮し、リスクで考えることが共通の認識となっている。国際的にはUNEPにおけるSAICM、あるいは欧州におけるREACH規制への取り組みが進むなか、我が国においては、こうした動向をふまえて、化学物質管理の重要な法律である「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）」等の改定が予定されている。

本シンポジウムでは、化学物質管理に関する国内外の最新動向および化審法の改定の概要について話題提供し、加えて各省で取り組んでいる研究課題および成果を紹介する。そして、リスク評価と認識のされ方、今後の化学物質のリスク管理、社会的な合意形成について関連研究者間でパネルディスカッションを行い、議論を深める。

主催 内閣府
共催 文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省
日時 平成21年1月29日（木）10：30～16：30 （受付開始10：00）
場所 社会福祉法人全国社会福祉協議会 灘尾ホール
〒135-0064 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル
<http://www.shakyo.or.jp/jncsw/access.html>

参加申し込み 聴講（無料・先着順）を希望される場合は、下記ウェブサイトにてお申し込み下さい。

<http://www.renkei.jst.go.jp/sympo/chemical02/index.html>

*参加者は、原則として事前に申し込みを受けた方のうち、先着順にて当方から「参加登録を受けた」旨のメールを返信した方とさせていただきます。

締切 平成21年1月23日

定員 約300名

プログラム（予定）

開会挨拶（10：30～10：40）

「化学物質管理の最近のトピックス」 (10:40 ~ 10:55)

科学技術連携施策群 化学物質安全管理・活用連携施策群
コーディネータ・主監 安井 至

「化審法の見直しについて」 (10:55 ~ 11:25)

経済産業省製造産業局化学物質管理課長 福島 洋

I 平成20年度科学技術振興調整費採択補完的課題成果報告

11:25 ~ 11:55

○

「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」

横浜国立大学大学院環境情報研究院

教授：研究代表者 三宅 淳巳

休憩（昼食） (11:55 ~ 13:00)

II 各省施策の報告

13:00 ~ 13:20

○

「河川における微量化学物質の実態と評価」(国土交通省)

独立行政法人土木研究所水環境研究グループ

水質チーム上席研究員 鈴木 穰

13:20 ~ 13:40

○ 「化学物質ばく露に関する複合的要因の総合解析によるばく露評価」(環境省)

独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センター

曝露評価研究室長 鈴木 規之

13:40 ~ 14:00

○

「Per cellome トキシコゲノミクスの進捗ー網羅性を担保した遺伝子発
現変動の抽出による分子毒性研究ー」(厚生労働省)

国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター

毒性部長 菅野 純

14:00 ~ 14:30

○ 「化学物質管理のためのリスクトレードオフ解析手法開発」(経済産業省)

独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門

主幹研究員 吉田 喜久雄

III 話題提供

14:30 ~ 15:00

○

「環境マネジメントに資する化学物質リスク評価の基盤形成について～詳細リ
スク評価と教育の経験に基づいて」

大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻

教授 東海 明宏

休憩 (15:00 ~ 15:20)

IV パネルディスカッション (15:20 ~ 16:25)

「リスク評価と認識のされ方」

モデレーター

科学技術連携施策群 化学物質安全管理・活用連携施策群

コーディネータ・主監 安井 至

パネリスト

国立医薬品食品衛生研究所

安全性生物試験研究センター 毒性部長 菅野 純

独立行政法人産業技術総合研究所

安全科学研究部門 主幹研究員 吉田 喜久雄

独立行政法人土木研究所

水環境研究グループ水質チーム 上席研究員 鈴木 穰

独立行政法人国立環境研究所

環境リスク研究センター 曝露評価研究室長 鈴木 規之

大阪大学大学院工学研究科

環境・エネルギー工学専攻 教授 東海 明宏

横浜国立大学大学院

環境情報研究院 教授 三宅 淳巳

閉会の挨拶 (16:25)

※本報告会は、総合科学技術会議のイニシアティブの下、平成20年度科学技術振興調整費によって実施されています。